

第7回 Abeno Ophthalmic Seminar

～Osaka City University Ophthalmic Open Seminar～
(AOS)

ハイブリット開催
現地+WEB

日本眼科学会認定専門医 (認定事業番号: 100020)

現地1単位・WEB0.5単位 申請中

日時: 2024年 **11**月**23**日 (土) **17:00~19:00**

会場: マリオット都ホテル 20F 「茜の間」
〒545-0052 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目1-43

Opening Remarks: **本田 茂** 先生

一般講演 17:00~17:30

座長: **河野 剛也** 先生 (大阪公立大学)

『超広角画像を用いた網膜診療』

坂井 淳 先生 (大阪公立大学 病院講師)

教育講演 17:30~18:00

『流涙はわかると面白い!! ~流涙診療の実際~』

大江 雅子 先生 (多根記念眼科病院 診療部長)

特別講演 18:00~19:00

座長: **本田 茂** 先生 (大阪公立大学)

『涙道疾患のup-to-date』

白石 敦 先生 (愛媛大学医学部眼科学教室 教授)

◆ 医師は、参加費として**1,000円**頂戴いたします。(認定事業番号: 100020)

◆ WEBにて視聴の方は、WEBシステムを利用した**事前決済**となります。

◆ 現地にてご参加の先生は**事前申し込み**をお願い致します。

◆ ご不明な点がございましたら、担当者もしくは

hidetoshi-kubota@senju.co.jp (千寿製薬 久保田) へメールをお送りください

共催: あべの眼科研究会、千寿製薬株式会社

WEBにてご視聴の先生方へ ～事前登録～

ご登録は下記QRコードURLより**11月22日(金)**までにお願い申し上げます。



<https://x.gd/cE4Lb>

① 申込者情報登録

ご参加枠(医師もしくは医師以外)を選択後
Web参加登録は
より「利用規約」へ同意のうえ

■ 医師
「メールアドレス」「パスワード」「お名前」「電話番号」

■ 医師以外
上記+「施設名」「都道府県名」
をご登録ください。

→ 申込者登録完了メール受信

※【医師以外】の方はここまでで完了。

② 参加登録

マイページの「参加登録」から

「施設名」「専門医番号」「都道府県名」「視聴する」
をご登録ください。

→ 参加者登録完了メール受信

③ お支払い情報の入力

マイページの「支払・領収書」をクリックし

「クレジットカード」をご選択ください。

カード会社を選択し

「カード番号」「セキュリティーコード」「有効期限」
をご登録ください。

「クレジット決済完了・当日視聴用URL」メールが
届きましたら**登録完了**でございます。

※医師以外の方は「申込者登録完了(視聴URL記載)」メールのみとなります。

現地にてご参加の先生方へ ～事前申し込み～

下記2点のいずれかの申し込み手順から

11月15日(金)までに事前申し込みをお願い申し上げます。

①Web申込 <https://x.gd/cE4Lb> から参加登録



WEB視聴の事前登録と同様の登録方法です。

登録完了後、マイページの参加登録より「**現地参加**」をお選びください。

その際には情報交換会の参加可否も選択いただけます。

また支払い情報の入力はありません。

当日参加費として1,000円頂戴いたします。

② 千寿製薬久保田もしくは、弊社担当者へ参加申し込み

千寿製薬 久保田 (hidetoshi-kubota@senju.co.jp)もしくは
弊社担当者へ参加申し込みをお願い申し上げます。

□ 講演会終了後、情報交換会を予定しております。
ご都合よろしければ参加のご検討をお願い申し上げます。

※注意点※

当日ご参加・ご視聴できなくなった際は、専門医単位は付与できません。
WEBにて事前決済をされていた場合は、返金対応をさせていただきます。

何卒ご理解ご容赦のほど宜しくお願い申し上げます。

お問い合わせ

千寿製薬株式会社 関西支店 大阪第一グループ
久保田英稔 TEL:080-8330-3254 ✉ hidetoshi-kubota@senju.co.jp

第7回 Abeno Ophthalmic Seminar

～Osaka City University Ophthalmic Open Seminar～
(AOS)

ハイブリット開催
現地+WEB

愛媛大学医学部眼科学教室 教授

白石 敦 先生



【ご略歴】

- 1986年 日本医科大学卒業
- 1986年 日本医科大学第2外科入局
- 1994年 シンシナティ大学眼科客員講師
- 1998年 愛媛大学眼科入局
- 2005年 愛媛大学視機能外科学講師
- 2008年 愛媛大学視機能再生学准教授
- 2016年 愛媛大学眼科学教授 現在に至る

【涙道疾患のUp-to-date】

涙道疾患の主症状は流涙ですが、涙液分泌亢進による分泌性流涙(lacrimation)と、導涙機能の低下による導涙性流涙(epiphora)があります。分泌性流涙はメディカル、導涙性流涙はサージカルでの治療が中心になりますので、発症原因を正確に突き止め治療方針を判断することが重要です。涙道領域では、一昨年「先天鼻涙管閉塞診療ガイドライン」、昨年「涙道内視鏡診療の手引き」が発表され、涙道疾患に対する診療が標準化されてきました。本講演では、これらのガイドラインや手引きをご紹介しながら流涙症治療の必要性についてお話しするとともに、抗がん剤や薬剤による眼合併症、涙道関連角膜障害など、最近話題の涙道疾患についてもご紹介したいと思います。

共催：あべの眼科研究会、千寿製薬株式会社